ナダウラ　灘浦　鹿島郡鵜浦の邊から越中氷見までの磯邊をいふ。能登誌に、角島から大泊まで六里あり、大泊の次は脇村というて越中氷見庄に屬すると記する。

ナダカ　名高　藩政の時、百姓が貧困の爲次第に切高して、その殘餘殆ど盡きるに至つても、尙二升高だけを剩して、百姓の地位を維持し、頭振に墮落せざるを古格とした。名高持又は二升高持といふのが是である。

ナタガハ　那谷川　江沼郡にある。能美郡境の山脈に發し、菩提・那谷を經て安谷川を併せ、動橋川に入る。流程四粁。

ナタジ　那谷寺　(一)沿革—江沼郡那谷にあつて、眞言宗に屬する。山號は自生山。源平盛衰記に奈谷寺と記され、本來ナタニデラである。その那智・谷汲の頭字を取つたといふ說は牽强に過ぎぬ。白山記には、『三箇寺。那谷寺號岩屋寺・溫谷・榮谷。』と記され、王朝に創つた白山末院の一で、今も境內に白山社がある。隨うて初は天台宗であつたと思はれる。天正中兵燹に罹つて舊觀を失うたのを、寛永十七年前田利常が再興してから、形勝の奇絕に加へるに輪奐の壯麗を以てして、その名を稱せられるに至つた。那谷寺の寺坊は藩政の頃には不動院(俗に東の寺)と花王院(西の寺)とがあり、前田利常は正保四年不動院に寺領七十石、承應四年(明曆元)花王院に寺領三十石を與へ、後大聖寺藩も之を襲いだ。明治の後花王院を廢し、不動院を改めて那谷寺と稱することになつた。

(二)觀音堂—境域は石英粗面岩及び角蠻岩の岩石より成り、その半腹に洞窟を穿つて觀音を安置し、窟前に高く堂を構へて、京都淸水のそれを小にした如き觀を呈する。三壺記に、『正保元年甲申春の比、小松中納言利常公鷹野の次でに、那谷岩屋の觀音堂の躰を御覽成されけるに、高さ十丈許の石山に、老木枯木しげり合ひ、山の腹の中間に洞有て觀音堂の社を建て安置せしめ、眞言坊花王院香華を備へ執行す。』とて、それより利常が荒廢を興したことを記してある。又元祿二年芭蕉の奧細道には、『山中の溫泉にゆくほどに、しら根が嶽跡に見なしてあゆむ。左の山際に觀音堂あり。花山法皇三十三所の順禮遂させ給ひて後、大慈大悲の像を安置し給ひて、那谷と名付給ふとかや。那智・谷汲の二字をわかち侍しとぞ。奇石さま〴〵に、古松植ならべて、萱ぶきの小堂岩の上に造かけて殊勝の土地なり。石山の石よりしろし秋の風。』と見え、同年秋黃檗の高泉も亦之に詣でゝ自生山那谷寺記を作つた。

(三)國寶建造物—當寺の大悲閣・三重塔・護摩堂及び鐘樓は、昭和十六年七月國寶建造物として文部省から指定せられた。

大悲閣。三間二面、單層、屋根入母屋造・軒唐破風・正面千鳥破風、柿葺。四方欄間に透彫を施し、岩山の中腹に架せられる。その內陣は巖窟內に在つて、多く唐木を用ひる。

三重塔。方三間三層、屋根棧瓦葺。中心柱を用ひず、各層每に組立てられてゐる所に特色があり、大日如來を安置し、大悲閣の西南山上に建てられてゐる。その露盤の銘に、『奉創建那谷寺寶塔一宇者。爲容恒河沙菩薩之瑤座救一切緊緣之群萌也。倚賴斯誠心。慕府千秋。新君萬年。及自臣至子孫雲仍。武德長遠。家運繁榮。各保康寧蹐壽域。永蒙安富尊顯之冥助矣。寛永十九壬子歲九月吉日。大檀越從三位黃門兼肥前守加越能前大牧源朝臣利常卿敬白。冶工當國釜屋宮崎彦九郎藤原朝臣吉綱』とあつて、利常が德川家綱の生誕を祝し建立したものと見える。

護摩堂。三間三面、單層、屋根入母屋造、棧瓦葺。四方欄間に極彩色を施した跡が殘り、內部は全部金箔押で、蟇股に彫刻せられた十二支はそれ〴〵の方角を示し、外側腰板の獅子は最も自由奔放である。大悲閣に對峙した巖上なる八枚の大きい臺石に建てられてゐる。

鐘樓。屋根入母屋造、棧瓦葺。袴腰の上部までが全部石造で、全國に殆ど例を見ぬものである。護摩堂の北方に存する。

(四)庭園—那谷寺(舊不動院)の庭園は、前田利常の伽藍再興と同時に築造せしめたもので、當初は現狀よりも更に廣かつたのであらう。園中に步石を布置し、所々に石を樹て、西方に茶室を設け、東方に小池を穿ち、北界の椎の老樹に對して、東境に杉の巨幹が亭々とし、石材は多く瑪瑙を用ひて蘚苔之を蔽ひ、趣致甚だ幽淸である。昭和四年四月文部省は之を名勝として指定した。

ナタジエンギ　那谷寺緣起　一卷。江沼郡那谷村那谷寺の緣起で、卷尾に『寛永十九龍輯壬午冬十月吉旦大檀那三州太守黃門利常卿因命現住法印定憲謹書焉』とある。

ナタシヨウ　奈多庄　江沼郡に屬する。地藏靈驗記に、『賀州奈多莊の那司卜部の某云々』と見える。奈多莊は今の那谷村附近であらう。

ナタジヨウ　那谷城　太平記延元三年越後勢が越前に赴く條に、『富樫介是を聞いて、五百餘騎の勢を以て阿多賀・篠原の邊に出合ふ。然れども敵に對揚すべき程の勢ならねば、富樫が勢二百餘騎討たれて那谷の城へ引籠る。』などゝある那谷城に就いては、江沼志稿に、那谷村三光院から觀音山へ登る道の左の山を城跡といふが、郭の形は見えぬとし、越登賀三州志故墟考には、此の山中の大谷といふ所から迤東の山麓を古來城跡といふが、城の遺狀は無いと記してゐる。

ナタダニ　那谷谷　江沼郡では鄕庄名を失うてゐたから、藩政時代にかうした區劃が呼ばれて居た。那谷谷には岡・敷地・大菅波・小菅波・作見・弓波・西島・津波倉・二子塚・森・河原・勅使・宇谷・龍ヶ原・菩提・那谷・榮谷・山本・淸水・桑原・庄・七日市の二十二ヶ村が含まれてゐた。

ナタツヤモノガタリ　那谷通夜物語　三册。初に江沼郡那谷觀音の由來を記し、次に一老人がこゝに參籠し、正德二年八月十日の大風によつて大聖寺藩領が不作となり、十月土民が邑長等の家を破壞した顚末を述べることを書いてある。

ナタノメノウ　那谷の瑪瑙　江沼郡那谷には瑪瑙を產する。雲根志に、加賀國名谷山に瑪瑙を出すとし、茇憩紀聞に、那谷に石谷といふ所があつて瑠璃石を出す。いづれの頃か京都邊の者が運上を納めて採掘したが、上品のものを多く出したといひ、秘要雜集には『元祿十年十月京都玉屋德兵衞と云者、那谷村領の玉石望、石目四十貫目に運上銀六枚上り候て掘る。是より前も玉石掘る事有之由。此以後も松屋藤右衞門などいふ者、追々運上